

と何らかの関連があつたのではないか。

米国行きが本決まりになり、会社から支度金をもらい、洋服を何着も作り、船の予約もした。盛大な送別会もやつてもらい、いざ出発というときに、突然中止になつた。当時は外貨割り当てが問題になつており、軍あたりから横ヤリが入つたのではないか。

結局、食い逃げに終わつた。支

度金は洋服に化けてしまつており、返せない。

仲間に対しても送別会をやつてもらつた手前、体裁が悪かつた。私の米国行きも中止になつたが、トヨタ、日産、フォードの三社合弁構想も、日米関係の雲行きがあしくなるにつれ、自然消滅してしまつた。

す。

現在各工場は社名・系列は変わども盛業裡に社会や国家に貢献しております。

創業者鈴木商店は消えても、それ等の工場自体の歴史には必ず

顧し始めての終りの駄文を弄した

歩いた五〇年サッポロビール門司工場誌」を御覧下さい、鈴木商店がサクラビールがハッキリ生きております。

私、その鈴木商店系の工場群の間に生れ、その一つ帝国麦酒に大正十五年三月三十日入社（東京勤務）しました。

翌昭和二年鈴木商店問題発生し新入社員は暫らく無く、結局鈴木系としては私共が最後でした。

私は北九州市門司区大里（現在門司駅のある所）の海岸近くの生前方は急流渦巻く関門海峡で南へ即ち日本塩素、日本酒類・大里製粉（日粉）大里製糖（日糖）やや離れて帝国麦酒の各工場を設めてゐました。その故かいつの間にか子供心にも鈴木商店・金子さんは云うまでなく柳田さん西川さん高畠さんと云う名は覚えてゐました。

鈴木商店と我が故郷 大里の回顧

北野浅美

さて私の故郷大里、明治中期より鈴木商店が海岸線に沿い北より南へ即ち日本塩素、日本酒類・大里製粉（日粉）大里製糖（日糖）やや離れて帝国麦酒の各工場を設けました。地の利を狙つての慧眼でせう（私の生家は日糖の近くで現存してゐます）この小さな町の海岸に鈴木商店の大工場が五ツ並んでゐるのも又珍らしいと言えま

昭和十八年十月当時の大日本麦酒に被合併解散・サクラビール最後のバランスシートを作つたのも何かの縁だったと思います。そして退社しました。在社十八年故郷のサクラビール・我が家から十分足らずで歩いてゆけるサクラビル、私の脳裡より消える筈はなく今も生きています。

「たつみ」第四十一号御恵送頂き鈴木商店の記事やサクラビールの

日銀より鈴木商店に転ず

門室寿人

（遺稿）

大正六年二月、高畠、永井、龜井三氏の同意津村先生の諒解を得て神戸鈴木商店に転ず。店内の空氣は正に元氣横溢にして陰気の日銀に比し昼夜の差あり。

七年前同時に卒業せし連中は皆主任級にして多くの部下を指図し收入亦何倍かにして得意満面也。我輩止むなく小さくなりて店内の模様の見学に努む。

免に角龜井君に關係深き鉱山部

に籍を置き山師達と席を同じうす

れども此の連中は買山のため一度出張するや山麓にて酒に浸り談判に幾日も費し足跡何処にありや。帰神する迄の行動全く不明。豪傑連揃にて其の長を阿部元松と云い一奇人也。菊池亦酒豪にして行動睥睨不可。丸で無統制、無茶苦茶の天地也。併し事業勃興の際は如斯元氣なくしては急速間に合わず或る点迄は大目に見るの外なけん。

四年に入り岡山県江興味鉱業所に出張を命ぜらる。岡山にて中國線に乗り換え福渡にて下車人力車にて旭川沿いに四里半上り渡し舟

にて対岸に渡り更に瓜阪上り一里半にて高き山間の鉱山事務所に達す。神戸を朝早く出発夕方六時頃に到着全く不便の山狭にあり。

此の辺今尚寒冷、夜間は真冬様也。之の鉱山は九州人にして岡山在住山本と云う山師の名目にて買収し未だ鈴木の名義出しあらず。その財的看視が我輩に与えられたる任務也。初め二週間位の予定なりしが遂に月末迄滞山此の間一度報告に帰神せし事あるのみ。

我輩にとりては本店にて不得要領るより全々新らしき鉱山生活研究は面白く半年の間に得たる感想経験苦難は後日の為益せる處多大なりき。當時日比に銅精練所を作りたるも鉱石は買鉱耳にて是非自家銅鉱を獲得し度きため各地に買山を試みたるも斯かる泥縄式にて果して成功するや疑無き不能。然れども銅価の暴騰は放棄したる選鉱済の鉱石亞選鉱しても計算に合

うとして買山するに至る。中国筋には大いなるもの無けれども小なるもの可なり多し。江興味も一時鉱石塊に出会いて前主は儲けたる由更に探鉱せば宜い脈に當る可しとて買収したるもの其後鉱区の拡張をなし大いに有望視ら



▲ロンドン時代の筆者（大正7年頃）

創業者鈴木商店は消えても、そ

れ等の工場自体の歴史には必らず

鈴木商店名が刻み込まれて生きてゐる筈です。同封の「門司工場がサクラビールがハッキリ生きてあります。

鈴木商店の記事やサクラビールの

おもに生れ、その一つ帝国麦酒に大正十五年三月三十日入社（東京勤務）しました。

翌昭和二年鈴木商店問題発生し新入社員は暫らく無く、結局鈴木系としては私共が最後でした。

昭和十八年十月当時の大日本麦酒に被合併解散・サクラビール最

後のバランスシートを作つたのも何かの縁だったと思います。そし

て退社しました。在社十八年故郷のサクラビール・我が家から十分

足らずで歩いてゆけるサクラビ

ル、私の脳裡より消える筈はなく今も生きています。

「たつみ」第四十一号御恵送頂き鈴木商店の記事やサクラビールの

△原稿募集	
内容	隨想 短歌 俳句 絵画
詩	写真 鈴木往時の思出などを
必ず原稿用紙に縦書で	
四百字詰五枚程度	
締切	昭和六十年五月末日
送先	神戸市中央区京町七二一 太陽鉱工株内
「たつみ」編集部宛	

